

## 2008年度 事業報告

### 概 況

現場基点をよりどころに技術革新と社会変革を俯瞰しつつ新たな変革の原動力を生み出すため、自由な論議の中で切磋琢磨できる場を広く提供していくことを基本方針として取り組んだ。学会誌「技術革新と社会変革」の創刊号発行、第1回春季討論集会の開催などの新たな成果があった。

### I. 特定非営利活動に係る事業報告

#### 1. 調査・分析・研究活動

##### 1-1. 学術総会

第2回学術総会を以下のように開催した。

- 1) 日時：10月17日(金)
- 2) 会場：東京都千代田区 学術総合センター（中会議室）
- 3) 参加者：58名
- 4) 内容：

##### ①奨励賞 2008 伝達式

以下の5名の方々が受賞した。

小金井稔元氏  
朝日正三 氏  
山岸千丈 氏  
弓取修二 氏  
石川 諭 氏

##### ②学術発表：9件

「熱媒加熱システムの変遷と将来性」  
「シリコンパウダーについて」  
「めっき濾過でのトラブル」  
「樹脂製チェーンレスバケットコンベヤの開発とその後」  
「ナノメーター粉碎における湿式微粒化方式の特徴」  
「技術開発におけるリスクの様相と克服法」  
「家庭科教育と技術革新」  
「公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」の動向」  
「新型インフルエンザ対策の現状と課題」

##### ③特別講演：

「健康危機管理における論理と倫理 ―その光と影を考える―」  
茨城県立中央病院 茨城県地域がんセンター 土井幹雄氏

5) 学術総会要旨集について、JST（科学技術振興機構）から寄贈依頼があったので応じることにした。

同機構が運営する文献情報検索システム JDream II のデータベースとして書誌情報が利用される予定。次回以降も同様に提供する。

## 1-2. 春季討論集会

第1回春季討論集会を2009年3月3日、東京都千代田区学術総合センターにて開催した。化学生物総合管理学会と共催という形を試みた。

参加者 : 52名

テーマA：安全を創る真実はいずこに～個人の責任と企業の役割のはざままで～

(座長) 向殿政男 (明治大学理工学部教授)

中島幹 (綜研化学株式会社)

B：アスベスの事例にみる事後管理の必要性

～法に基づく調査の必要性和意義を論じる～

(座長) 車谷典男 (奈良県立医科大学教授)

C：化学物質総合管理の法体系をどう再構築するか (その2)

～化審法改正の改正はこれでよいのか～

(座長) 星川欣孝

(お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター)

各テーマともに最初に全体会合で座長から問題提起を行った後に、分科会に分かれて討論を行った。

テーマ毎の参加者

A	19名
B	10名
C	15名

## 1-3. 講演会の開催

2008年10月17日開催した第2回学術総会の一環として下記を行った。

演題：「健康危機管理における論理と倫理 ―その光と影を考える―」

講師：茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 土井幹雄氏

## 1-4. 学会誌「技術革新と社会変革」の発行

第1巻第1号(創刊号)を9月に発行した。

以下の6件が掲載され、総ページは51ページであった。

総合報文：2件

- ・ 粉末製品の性状の要求変化に伴う噴霧乾燥技術の発展  
－液体の微粒化から見た1975年からの20年－
- ・ 社会ニーズの変遷に伴うふるい機の技術革新  
－80年の歴史を振り返って－

報文：3件

- ・ 強度の高いセメントは良いセメントか
- ・ 新しい排煙脱硫プロセスの開発
- ・ 新エネルギー分野におけるベンチャー企業等による技術活性化に向けたいくつかの試み

短報：1件

- ・ 工場の静電気安全管理強化に向けての導電率の活用

#### 1-5. 研究会活動

- (1) 活動を開始した研究会はなかった。
- (2) 2008年の定期総会では、公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」の講師陣が研究会組織の枠組みで活動し、それを基に公開講座の科目を開設した場合は、学会がその科目の連携機関であることを明示できることとした。

#### 2. 知見の集大成、体系化に関する事業

特記すべき活動はなかった。

#### 3. 教育・普及・啓発に関する事業

お茶の水女子大学公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」の広報に協力し、ホームページ掲載、ニュースレター発信により講座紹介を行った。

#### 4. 講習およびセミナーの開催

特記すべき活動はなかった。

### II. その他事業に係る報告

特定非営利活動に係る事業以外のその他の事業については、定款において以下の項目が認められているが、2008年度においてはそれらのいずれについても実施していない。

- (1) 製作した著作物の販売に関する事業
- (2) 講習・研修会の開催事業、講師派遣・紹介事業
- (3) 教育プログラム開発事業、教育実施支援事業
- (4) 機関誌、ホームページ等への広告掲載事業

### Ⅲ. 管理・運営に関する報告

#### 1. 会員状況

2008年度の会員数の増減は下表のとおり

	2008年 4月1日	入会	退会	2009年 3月31日	実質増減
正会員	33	0	2	31	△2
学生会員	0	1	0	1	+1
賛助会員	2	0	0	2	±0

賛助会員名簿 2009年3月31日現在（入会順、敬称略）

日本化学工業株式会社

JSR 株式会社

#### 2. 通常総会

##### 第3回通常総会

6月5日(木) 会場：お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター

会員数 33名 実出席 12名、委任状提出 6名、書面表決 8名

主要議案・2007年度事業報告および決算報告承認

- ・2008年度事業計画および予算承認
- ・理事1名（補充）選任
- ・奨励賞受賞者の決定

#### 3. 理事会

##### 1) 第5回理事会（拡大理事会） 2008年5月7日(水)

主要議案・2007年度決算報告

- ・通常総会議案
- ・ホームページ一言投稿欄名称投票結果について
- ・奨励賞の取り扱いについて

##### 2) 第6回理事会（拡大理事会） 2008年10月24日(水)

主要議案・学術総会実施報告

- ・学会誌の発行
- ・学会誌発行規程の改定

##### 3) 第7回理事会 2009年3月12日(木)

主要議案・2008年度事業内容の確認と決算見込

- ・2009年度活動計画と予算
- ・春季討論集会報告

#### 4. 企画運営委員会

役員(理事、監事)が企画運営委員会の委員を兼務して、学会の運営に関して具体的な施策を企画、立案するとともに業務の推進、調整を行った。

#### 5. 編集委員会

- 1) 査読委員会を設けて第1巻第1号(創刊号)の投稿原稿の査読を行い、9月に発行した。
- 2) 企画運営委員会に対して奨励賞受賞候補者5名を推薦した(2008年4月9日付)
- 3) 創刊号編集の経験に基づき学会誌発行規程の改定が必要と判断したので、10月24日理事会で追加審議を得る形で改定を行った。
- 4) 2巻1号の投稿原稿について査読を開始した。

#### 6. 広報活動

##### (1) ホームページ

- 1) 学会のPRツールとして、ホームページを開設しており、適宜修正した。
- 2) 「ちょっと一言」欄を新たに設けた。

2008年度は4個の投稿があった。

尚、記事の冒頭に「「ちょっと一言」は学会の見解を掲載する欄ではなく、国内外の情報の紹介や日頃考えている事柄などを個人の責任で自由に投稿できるコーナーです。」という注釈を付記することにして実施した。

##### (2) ニュースレター配信

No.13 から No.25 まで 13 回配信し、会員宛の連絡ツールとして活用した。(昨年度は 12 回)

#### 7. 運営資金状況

会員にニュースレターで納入依頼するのに加えて、未納者各人宛に納入状況を連絡して督促するなど会費の完全納入をお願いした。一方で、有効な企画については内容を充実させる考え方で支出管理を行った。2008年度においては収入627,178円、支出501,918円で、当期の収支としては、125,260円の余剰となった。

以上